
新里の「トゥスナギ スマフサリヤ」祭祀

報告 新垣則子／佐藤宣子／下地和宏／本永 清

上野の新里では、悪霊を追い払うためにスマフサリヤ (sīma-fsarja 島腐らし?) という祭祀が年3回とり行われる。各回ともその日取りは、当集落の公的な男性神役であるトキヌシュー (tukī-nu-ju: 時の主) によってなされるが、今年は次の月日 (陰暦) でとり行われた。

初回：旧暦1月戊申の日。トゥスアキ・スマフサリヤ (tusī-aki-sīma-fsarja 年明け)

2回目：旧暦6月戊申の日。トゥスナカ・スマフサリヤ (tusī-naka-sīma-fsarja 年の途中)

3回目：旧暦12月戊寅の日。トゥスナギ・スマフサリヤ (tusī-nagi-sīma-fsarja 年の終わり)

私たちは、2013年1月12日の午後、新里へ出向いてその3回目のトゥスナギ・スマフサリヤをつぶさに観察する機会を得た。本報告は、その時の調査ノートや写真、ビデオ、および後日行った補充調査の結果に基づくものである。

1 目的

集落内に外から浸入しようとする悪霊を追い払うためだという。村人は悪霊のイメージとして、幽霊や流行性感冒などをあげている。

2 日時

今年は旧暦12月戊寅の日 (西暦2013年1月12日) に実施。午後1時頃から儀礼が始まり、同3時35分頃に終了した。

3 場所

集落を出入りする道々14カ所と「ぶんみゃー前公園」側のザーグルユマタ (dza:-guru-jumata 座角の四辻) で実施。各場所をつなぐと新里集落を反時計回りに一周する形になる。順路については新里集落の略図を参照。

4 司祭者とその役割

- (1) ユーザス (ju:-dzasī 祈願役の神女) 各場所で線香を立て供物を供え、祝詞を唱えて祈願する。
- (2) カントウク (kantuku 世話役の男性) 供物をいろいろと準備したり、当日は雑役に従事する。

以上の神役2人のみで祭祀をとり行い、他に参加者はいない。

5 祭祀の準備

- (1) ユーザスは当日の午前中、公民館内で、各儀礼に用いる線香を数えてその必要分を準備する。新里で用いている線香はピサゴウ (pīsa-go: 平香) と呼ばれているものだが、これは12本の細長い棒状の線香を横に並べて板状



にしたようなもので、各儀礼では半分ずつ6本に割って用いる。この6本をまとめてピトゥカー (pītu-ka: 一革) と呼ぶ。カー (革) は、新里集落で線香を数える時の基礎単位である。準備すべき線香の種類とその数は次の通り。

- ①ヤーキゴウ (ja:ki-go: 戸数香) : 新里集落の戸数138戸分 138 革
- ②カラダザー (karada-dza: 身体座) : 人間の身体は49本の骨から出来ているということで、その骨数の分 49 革
- ③ウタキ (u-taki 御嶽) : 集落内には28カ所のウタキが散在し、そのウタキ数の分 28 革

- ④スマカキュー (sīma-kakju: 島囲い) : 新里集落を出入りする道が14カ所あり、その道数の分 14 革
- ⑤ユーザス (前出) の分 7 革
- ⑥カントック (前出) の分 2 革
- ⑦カンパニ (kam-pani 神暦) : 新里集落では、各祭祀の日取りはカンパニを預かるトゥキヌシュー (前出) によってなされる。その神役の分 2 革
- ⑧ジュニポウヌカンガナス (dzu:nipo:-nu-kam-ganasī 12 方の神々) : 東西南北など12方角には神々が鎮座するというので、その神々の分 12 革

⑨ニスヌムムカン

(nisī-nu-mumu-kam 北の百神)：北の方角に鎮座する神々の分 1 革

⑩パイヌムムカン

(pai-nu-mumu-kam 南の百神)：南の方角に鎮座する神々の分 1 革

⑪スタヌムムカン

(sita-nu-mumu-kam 地下の百神)：地下に鎮座する神々の分 1 革

⑫ウイヌムムカン

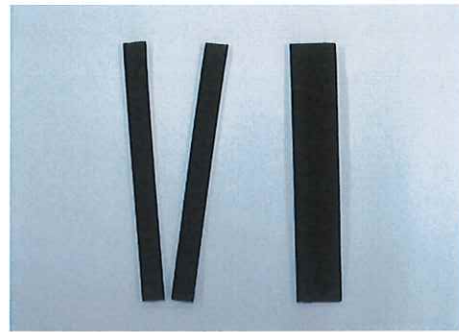
(ui-nu-mumu-kam 天上の百神)：天上に鎮座する神々の分 1 革

(2) 当日の各儀礼では、特製の紙ものをいろいろ用いて、神前に供物を並べる。その紙ものをまとめてジョー (dzo:) と呼ぶ。このジョーはユーザスを作る。準備すべきジョーの種類とその数は次の通り。

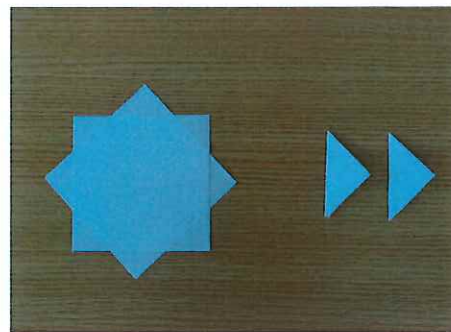
①ジョーカビ (dzo:-kabi 盃や皿を載せる紙)：供物を並べる時に、下に敷く白半紙。紙製の敷物ということであろう。これを場所①～⑫の儀礼で1枚ずつ使用するため、少なくとも15枚を準備する。

②サキジョー (saki-dzo: 盃)：盃用に和紙を小さく切って袋状に折ったもの。これを場所①～⑫の儀礼で12袋ずつ使用するため、少なくとも168袋(12×14)を準備する。

③ウキジョー (uki-dzo: 受け皿)：受け皿用に和紙を小さく切って広げたもの。これを場所①～⑫の儀礼で6枚ずつ使用するため、少なくとも84枚(6×14)を準備する。



写真① 線香の形 (見本)



写真② ジョーの形 (見本)

(3) 一方、世話役のカントックは、前日までに買い物を済ますと、当日は公民館で供物をいろいろと準備する。供物のことをパナ (pana 花。供物のこと) と呼ぶ。パナの費用は新里自治会が負担する。準備すべき供物は次の通り。

①線香 (ko:)：ほぼ1年分をまとめて買いする。

②酒 (saki)：3合瓶1本。

③洗米 (araī-gumi)：白米を2kg購入する。白米はかつて洗ってから、神前に供えていたようである。ただし現在、白米は洗わないでそのまま神前に供える。

④塩 (ma:su)：1袋。

⑤タバコ (tabaku)：一箱。

⑥豚の生肉 (nama-wa:)：かつては、

新里集落で豚一頭をつぶして神々に供えていたようだが、今は肉屋に注文して2kg購入する。1kgは供物として用い、1kgはユーザスの取り分だという。

⑦供物用の豚肉は、包丁で大小に切り分けて鍋の中に入れて煮る。この肉料理をそれぞれ大肉、小肉と呼び分ける。

⑧豚の腸、血、鼻、耳（左右）、尻尾、足先（2つ）、骨の小片も、これは生のまま揃える。腸は、藁3本を撚った縄でしばり、これを7つ束ねたものと37束ねたものを準備する。これら各部位でもって、豚一頭分に見立てる。まとめてバナバナ（pana-bana 豚の尖った部分の供物）と呼ぶ。



写真③ ミフミズナ（魔除け縄）



写真④ 路上でのユーザスの祈願

(4) カントックは、魔除け用に約3m長さの左縄を14本作る。この左縄をミフミズナ（mifumi-dzina）と呼ぶ。中央部分に豚の胸骨か腰骨を1個挟んで吊す。この縄を路上に横たえると、悪霊が恐れをなして、この境界線から先へは進んでこないという。この縄を集落の出入り口に置くことによって、集落内への悪霊の浸入を防ごうという考えのようである。

(5) なお、煮炊き用の小鍋や、供物を載せる皿・椀などは、平日は公民館の中に保管してある。当日、カントックは、これらの鍋や食器も収納庫から取り出してきれいに洗っておき、午後からの祭祀に備える。

6 祭祀の概要

先に略図で示したように、新里集落を反時計回りに一周する形で、所定の道々15カ所でユーザスとカントックによる祈願がとり行われる。場所(1)～(14)までは、その儀礼の内容はまったく同じだが、場所(15)では、線香の草数や供物の種類など儀礼の内容がいくらか変わる。以下、各場所での儀礼の概要を示す。

場所(1) ザーグルザー (dza:-guru-dza:) の東側の道。ユーザスは、やや東（民俗方位。以下、同じ）の海を向いて祈願する。儀礼の内容は至って簡素である。

①カントックがまず、豚骨を挟んで吊したミフミズナを車の中から1本取

り出してきて、道路を遮るように路上に横たえる。集落内に浸入しようとする悪霊を、ここで塞き止め、追い払うためだという。かつては道路の両側に2本の柱を立て、その先端に縄を結んで吊していたようだが、現在は男手が一人ということで、そのまま路上に置くようにしたという。

- ②カントックが左縄を路上に置くと、ユーザスが道路の左側に中腰で坐って、悪霊を退治する儀礼をとり行う。その手順は次の通り。

①まず袋の中からジョーカービ(敷布)を取り出して地面に広げる。両端には、ピサゴウ(平香)を2革ずつ置くが、これを焚くことはしない。

②ジョーカービの上にウキジョー(受け皿)を二枚重ねて置く。これは4つ角を少しずらす。ウキジョーの上には、サキジョー(盃)を12個重ねて置いて、その上に酒瓶の中からその蓋に注いだ酒をこぼす。

③同じようにウキジョーを2枚重ねて置いて、その上にビニール袋の中から白米を少しつまんで置く。

④同じように2枚重ねたウキジョーの上に、別のビニール袋の中から塩をつまんで置く。

⑤こうして線香を立て供物を並べ終えると、ユーザスはその場で、次の祝詞を唱えて祈願する。

ミフミズナウ パイ
mifumi-dzīna-u pai
魔除け縄を 張って

ニガーバ

niga:-ba

祈願した後は、

クヌ ツナウ フキチカー

kunu tsīna-u fkitjika:

この 縄を くぐると

ウッスヌ パギ

ussu-nu pagi

後頭部が 禿げるよ、

マタギスカー マタヌ パギ

matagiska: mata-nu pagi

跨ぐと 股の皮が 擦り剥げるよ。

アラダティズマヌ

aradati-dzīma-nu

新里村の 人々の

ガンズーサトゥ ケンコートゥ

gandzu:sa-tu kenko:-tu

「長寿」と「健康」を

マムリー フィーサマチ

mamuri: fi:samatji.

お守り 下さい。

ウマカマヌ フファミマガ

umakama-nu ffa-mmaga

各家の 子や 孫が

ウキナーカラ ヤマトウカラ

ukīna:-kara jamatu-kara

沖縄からも 大和からも 来る

ことが あるが、

ムーナ クヌ

m:na kunu

皆 この

アラダティズマヌ ナスクガニ

aradati-dzīma-nu nasī-kugani

新里村の 生んだ 黄金 (大切な宝) なので、

ンマガヌキヤーユ ケンコーユ

nmaga-nu-kja:-ju kenko:-ju

その 子や 孫たちの 健康も

マムリー フィーサマチ

mamuri: fi:-samatʃi

お守り 下さい。

〈解説〉「魔除け縄を張って祈願した後は、その縄をくぐると後頭部が禿げるよ、跨ぐと股が擦り剥げるよ」と悪霊に脅しの言葉をかける一方、これは十二方の神々に対する言葉であろうか、「新里村の人々の長寿と健康をお守り下さい。島外に住む子や孫たちの健康もお守り下さい」と祈願するのである。

③路上での儀礼は数分間で終わる。ユーザスは立ち上がって、次の目的とする場所へカントックの車で移動する。豚骨を吊して路上に置いたミフミズナや、ウキジョーの上に並べた供物は、そのまま片づけずにその場に放置する。これらの供物は数日間、路上で風や日光にさらされ、散らかっていつの間にか無くなる。

場所 (2) ツカサヤー (tsīkasaja:) 御

嶽へ通じる路上。ユーザスは、やや東の海を向いて祈願する。儀礼の内容は場所 (1) に同じ。

場所 (3) 砂川集落へ通じるバルキヤ (barukja) 坂の路上。ユーザスは、やや北を向いて祈願する。儀礼の内容は場所 (1) に同じ。

場所 (4) 砂川集落へ通じる消防署前の路上。ユーザスは、やや北を向いて祈願する。儀礼の内容は場所 (1) に同じ。

場所 (5) マンゴー畑の傍の路上。豊原集落へ通じる。ユーザスは、やや北を向いて祈願する。儀礼の内容は場所 (1) に同じ。

場所 (6) 旧学校跡の前の路上。ヤマズー集落へ通ずる。ユーザスは、やや西を向いて祈願する。儀礼の内容は場所 (1) に同じ。

場所 (7) 「上野新里第3団地」前の路上。ユーザスは、やや西を向いて祈願する。儀礼の内容は場所 (1) に同じ。

場所 (8) ナカミチ (naka-mtsī 中道) の西端の路上。昔の通学路。ユーザスは、やや西を向いて祈願する。儀礼の内容は場所 (1) に同じ。

場所 (9) シムティヤー所有の草地の傍の路上。ユーザスは、やや西を向いて祈願する。儀儀礼の内容は場所 (1) に同じ。

場所 (10) マイガー (mai-ga: 前の井戸) 傍の路上。役場へ通じる。ユーザスは、やや西南を向いて祈願する。儀礼の内容は場所 (1) に同じ。

場所 (11) スバリユマタ (subari-jumata 四辻名) の路上。ユーザスは、やや南を向いて祈願する。儀礼の内容は場所

(1) に同じ。

場所 (12) トーバリ (to:bari 地名) へ通じる路上。ユーザスは、やや東を向いて祈願する。儀礼の内容は場所 (1) に同じ。

場所 (13) アカムミ (aka-mmi 地名) へ通じる路上。ユーザスは、やや東の海を向いて祈願する。儀礼の内容は場所 (1) に同じ。

場所 (14) トウムズヤムトゥ (tumuija-mitu 御嶽名) へ通じる路上。ユーザスは、やや東を向いて祈願する。儀礼の内容は場所 (1) に同じ。

場所 (15) ザーグルユマタ (四辻) の路上。ユーザスは、やや南を向いて祈願する。この場所では、線香の革数や供物の種類など、他の場所とは儀礼の内容がいくらか違う。

①カントウクが地面にゴザを敷いて、臨時に儀礼席を設ける。その上にユーザスが坐って、儀礼をとり行う。この場所では、豚骨を挟んだ左縄は置かない。祭祀用に仕立てた紙製の容器であるウキジョー、サキジョーも用いない。敷布にあてるジョウカビは用いる。ここでは、供物を神前に並べるのに、公民館から運んできたお膳 (1つ)、中皿 (2個)、小皿 (2個)、グラス (1個) を用いる。

②ユーザスが儀礼席の前に、数個の小石を並べて囲みをつくり、その中に大きな線香の束を立てる。この線香の束は、スマカキューの線香を除いて、他の線香をすべてまとめたものである。因みに、ここで焚く線香の数は 242 革 (1452 本) である。



写真⑤ 供物の準備



写真⑥ 豚足



写真⑦ 豚の腸

③続いて、ユーザスがお膳を取り出して、自分の前に置く。お膳の上には、次の供物を、割り箸を副えて並べる。

- 中 皿 アライグミ (洗米。少量)
- 中 皿 マース (塩。少量)
- 小 皿 大肉 (大きめに切って煮た豚肉。数切れ)

小 皿 小肉 (小さめに切って煮た
豚肉。数切れ)

グラス 酒

タバコ 1箱

- ④また、ユーザスは先に立てた線香の位置より少し手前に、豚の各部位パナバナも並べる。豚の臓器と生血はビニールの袋に入れる。この各部位でもって、豚1頭分を神々に供えたということのようである。
- ⑤こうして線香を立て供物を並べ終ええると、ユーザスは線香に火を点けてから、次の祝詞を唱えて祈願する。

パニヌシューヌ トウリユーキ
pani-nu-fu:-ga tur ju:ki
パニヌシュー (神の暦を司る主)
が 選び取った

キューヌ カギ ピカズン
kju:-nu kagi pikadzī-n
今日の 良き 日に、

カラダザーヤ ヤグミザーヤ
karada-dza:-ja jagumi-dza:-ja
「身体座」に 「恐れ多い座」に

ウサギ カギ ニガーバ
usagi kagi niga:-ba
供物を 捧げて よろしく 祈願
するので、

カムヌ ニガイチョーンカイ
kam-nu nigaitjo:-nkai
そのことを 神さまの「祈願帳」に



写真⑧ ユーザスの祈願

ヌーシー フィーサマチ
nu:si: fi:-samatji
載せて下さい。

この祝詞には、村人の宗教的世界観が少しばかり反映されている。まず、神々の住む「身体座」という所がある。そこではおそらく、人間の健康を司っているのであろう。ユーザスはそこへ向かって、村人の健康を祈願する。……さて、その健康祈願を無事に済ませたので、そのことを神々の「祈願帳」に記載して下さいと、ユーザスは最後に願い出ていると解釈してよからう。

ここでも、他の場所と同じように、儀礼にそう長く時間はとらない。あとは線香が燃え尽きるのを待って、ユーザス、カントウクはお互いに言葉を交わしながら、時間を過ごす。

⑥線香が燃えつきると、ユーザスが盆上の各供物を小さくちぎって、別の皿に移し取る。この供物のちぎり取ったものをウイ (ui 上) と称し、神々の持ち帰り分ということのようである。ウイは、儀礼席のそばの地面にクワズイモの大葉を一枚敷いて、その上に紙の敷物ジョウカビを重ねる

と、まとめてその上に置く。豚の骨や臓器などパナバナも一緒に置く。

- ⑦最後に、ユーザスは各供物からウイを取った残りを両手に持って、今まで坐っていた儀礼席を立つ。路上に出ると「オーハー、オーハー」と声を発しながら、あちこち駆け回って、両手に持った供物を出来るだけ遠くへばらまくようにして投げ捨てる。このユーザスの行為をもって、新里のトゥスナギ・スマフサリヤ祭祀はその全日程を終了する。その時、私の腕時計の針は午後3時35分過ぎを指していた。



写真⑨ 供物をばらまく

その後、ユーザスとカントックは公民館に戻って、豚肉を煮て食し、その日の労をねぎらったようである。

〈 謝 辞 〉

補充調査では、前ユーザスの佐渡山トヨさんにお世話になった。彼女からは、スマフサリヤ祭祀に関して、多くの情報を教えていただいた。特記して感謝申し上げたい。

(文責：本永清)